

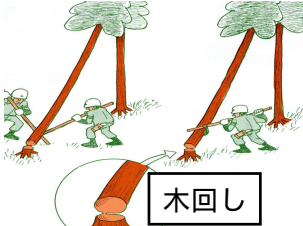


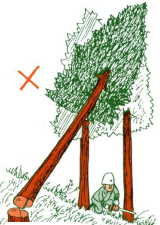

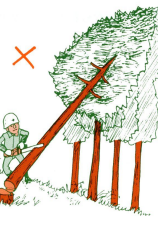

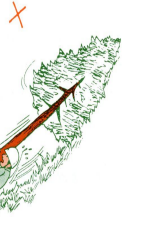


6 林 業

項 目	作 業 内 容
<p>(1) 間伐の必要 性と適期</p>	<p>(今月の作業のポイント) 間伐の必要性と適期 間伐作業の実施 間伐作業の安全</p> <p>11月25日高松气象台発表の1か月予報によると、向こう1か月の天気は、平年に比べ晴れの日が少なく、降水量も多い予報であり、降雨により木材が滑りやすくなるとともに足場も悪くなるので、労働災害に十分注意して作業を行なうこと。</p> <p>間伐は、成長過程で過密となった林(写真1)を、年輪幅の揃った資産価値の高い林にするために、混み合った林木を抜き伐り本数を減らす作業で、下草等の繁茂により、保水力の高まりや表土の流亡の少ない災害に強い健全な森林(写真2)づくりのためにも欠かせない作業である。</p> <p>本来は、樹木の成長期は、残存木が損傷を受けやすいこと、間伐直後は風害を受けやすいため台風時期は避けること等から、秋～翌春までが適期であるが、現在では、林業従事者の減少や事業量の増大に対応するため、年間を通じた計画的な間伐が実施されている。</p> <p>間伐による効果は以下のとおり。</p> <p>ア 林分の健全な成長を促進し、病虫害・気象災害等の防止。 イ 材の形質の向上や径級の増大・均一化が図られ、材価に反映。 ウ 若い林分の間伐の実施により、その後の間伐材の価値に反映。 エ 間伐材により中間収入の期待。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>写真1 間伐未実施林</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>写真2 間伐実施林</p> </div> </div> <p>(2) 間伐作業の実 施</p> <p>間伐の実施にあたっては、自分の山を見に行き行って林の状態を確かめること、将来どんな山にするかを決めて間伐を行うことに留意する。</p> <p>「優良な木材をつくりたい」、「短期間に収入を得たい」、「長伐期施業を行いたい」、「複層林に誘導したい」等、山づくりの方向性を決定してから、伐採率や伐採木を決定する。また、台風や最近のゲリラ的暴風雨による風倒木被害に少しでも対処できるよう林縁の木は、伐採を控えること。</p>

項 目	作 業 内 容
(3)間伐作業の安全	<p>林業の伐木造材作業において、近年、特に「かかり木」に関する死亡災害が増加している。かかり木の処理は、伐倒作業の中で最も危険な作業であるため、かかり木を生じさせないような伐倒前の準備や伐倒方向の決定及びそれを確実にを行う技術の習得が重要である。</p> <p>かかり木が発生した場合は、次の方法で対応すること（図1）。</p> <p>ア かかり木が直径 20cm 未満程度で容易にはずれる場合は、木回し、フェリングレバー、ロープ等を使用してはずす。</p> <p>イ かかり木の直径が 20cm 以上又は、容易にはずれない場合は、チルホール等のけん引具を用いて、速やかに処理する。また、可能であれば林内作業車などの林業機械を使用して処理する。</p> <p>速やかに処理できないときは、かかり木に布、ビニールテープ等で目印を付け、テープ等をまわして危険区域を表示し、かかり木の近くで、他の作業をしないことが大切である。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>木回し</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>フェリングレバー</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>チルホール</p> </div> </div> <p>図1 かかり木の対応</p> <p>次のような作業は大変危険なため行わないこと（図2）。</p> <p>ア かかられている木の伐倒（1）</p> <p>イ 投げ倒し（浴びせ倒し）（2）</p> <p>隣接の立木を伐倒し、かかり木に当たった衝撃でかかり木を外す方法</p> <p>ウ 元玉切り（3）</p> <p>かかり木の元玉を造材も兼ねて切り離す方法</p> <p>エ かかられている木の枝切り（4）</p> <p>かかられている木に登り、枝を切って外す方法</p> <p>オ 肩で担う処理（5）</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>(1)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>(2)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>(3)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>(4)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>(5)</p> </div> </div> <p>図2 危険な作業例</p> <p>具体的な実施方法等については、最寄りの各地方局森林林業課（森林林業振興班）の林業普及指導員等にご相談願いたい。</p>